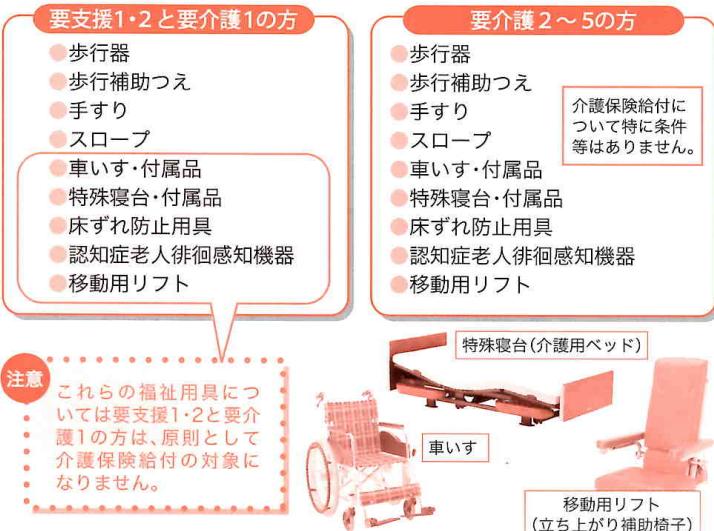


図1・介護保険給付の対象となる福祉用具



● 介護保険制度と福祉用具貸与について
介護保険制度は認定された要介護度に応じ、ホームヘルパーやデイサービスの利用施設への入所など、介護サービスを本人が選択して利用できる仕組みです。そのサービスの中には、介護用ベッドや車いすなどをレンタルできる「福祉用具貸与」があります。介護保険適用であれば、レンタル料のうち一割の負担でサービスを利用することができます。

● 福祉用具貸与・改正で変わったところは?
この制度改正では「要支援1・2」「要介護1」の方への福祉用具貸与について、大きく変更がありました。

図1のとおり、歩行器や杖などは要介護1までの方でも従来どおり利用できますが、介護用ベッドや車いすなどの介護

介護保険法の改正により、平成十七年十月には介護保険施設の食費・居住費を入居者にて負担することとなり、今年四月には、その他の大幅な制度改革が行われました。法改正により、福祉用具のレンタルはどのように変わったのでしょうか。

福祉用具

介護保険法改正

レンタルはどうなった?

この制度改正では、介護予防の充実や中重度者の支援強化、地域包括ケアの確立などの基本的な方針をもとに、仕組みが大幅に変更になりました。例えば、「要支援1」

「要支援2」

が新たに分類され、新設の地域包括

支援センターが介護計画

の作成を担当することに

なった点などが挙げられ

ます。

「要支援2」

が新たに分類され、新設の地域包括

支援センターが介護計画

座談

リハビリは立ちあがりベッドで
【努力・協力の一家、福田さん宅をたずねて】



ベッドから移動も
らくらく、元気にな
った福田さん
(上)とご家族の
皆さん(右)

頼っていたから、おばあちゃんが退院した後はどうしようか、と思いまし。どうしても家に帰る

前、福田さんは何をして
らしたんですか。

「おばあちゃんが倒れた」

福田みよしさんは、大正十一年生まれの八十四歳、息子さん一家と同居、上越市在住。平成十七年、脳梗塞で右側にマヒが残った。今朝市さん（みよしさんの夫）が日常動作の手伝いなど、家の暮らしのお世話をしていたが、今朝市さんが今年二月に亡くなられる。短期入所施設「桑の里」を利用して、そこで「立ちあがりベッド」を使ってリハビリを行う。同所はリハビリに力を入れ、専門家である作業療法士・山岸麗さんがおり、リハビリ機器も充実している。自宅に戻られたときに『桑の里』で練習していたものと同じ「立ちあがりベッド」を介護保険でレンタル利用し、現在はご自宅での生活で、短期入所（短期入所施設桑の里）、福祉用具貸与（さくしょくめいカルル）、その他、通所介護、訪問介護なども使っている。

福田さんはとにかく一生懸命で前向きな方。「同じような境遇の方がみよしさんの頑張つておられるところを見ればきっと心の支えになる」とお話を聞くことをお願いし快諾を得た。以下はご一家（息子さんの幸雄さん、お嫁さんの芳子さん）と作業療法士・山岸麗さんを交え座談を持ったその記録。

芳子 まずは食事やトイレを何とかしなきやといふことで、病院で三ヶ月間リハビリをして。おじいちゃんができる介助の方法もいろいろ考えてもらいました。立ち上がるときマヒした側の足首を押さえて足が滑らないようにする方法とか、衣服

―― そういう気持ちがあつたので、リハビリをはじめたんです。最初は自分の名前も言えず、記憶もあやふやだつたし、食事も全然アシストで、トイレも自分でできぬ状態で、「本当にリハビリで回復できるのかな」って感じだったんですけどね。

―― そこからここまで

回復したのは?

『桑の里』は福田さんのインタビューで登場した山岸麗さんのような機能訓練の専門家である「作業療法士」がいる短期入所施設。「ボディスピайдー」等の機器を導入、短期入所利用者への機能訓練に積極的である。

『桑の里』横尾保朋事務長が思いを語る

リハビリで復活への意欲と生きる楽しみを

短期入所施設でもサービスに特色を出して、それによって選んでいただければ、と考えています。桑の里では、昨年(平成17年)の4月から、作業療法士を機能訓練指導員として迎え、本格的にリハビリをはじめました。例えば、要介護度2くらいの方がしっかりと機能訓練をしていけば、加齢とともにどうしても身体的機能が低下するのは仕方ないとしても、在宅での生活がより長く維持していくと考えています。

自分の体がリハビリによって良くなっていくということを自覚し、それを励みにしたり、その人なりの楽しみを見つけていただくということも大切ではないか、生きるということはやはり目指すもの、何か糧がなければいけないのでないか、と思います。

現在、主に機能訓練に使用している部屋も、多目的室で
あったものが指導員の熱意ある要望で専用室になってしま
いました。また、ご自宅に帰られて、次のショートステイ
を利用していただくまでの間にも、指導員の山岸から家で
の生活の面などについていくらかフォローさせていただい
て(います。

私どもは「地域に貢献する施設」を基本方針にしていますので、上越地域全体に貢献できて、利用者の方に喜んでいただけるのがあればうれしい限りです。

短期入所施設 「桑の里」 概要	所在地	〒943-0881 新潟県上越市大字京田134-1
	電話番号	025-521-0770
	提供する介護 保険サービス	短期入所生活介護/ 介護予防短期入所生活介護

「自分でやろう」

としてでも福田さんなんか
自宅で暮らせるようにお
手伝いしていきたい」と
いうお話をあり、心理的
なりハビリから、実践的
な、お家で自分のことが
できるようリハビリを行
うことになりました。
そこからはもう、スバル
タ式で(笑)。

麗 体の状態はリハビリで急に良くなるというものではないので、マビのない左側の身体機能を高めることと、車いすとベッド、ポータブルトイレ

私は大正十二年二月生まれの八十三才、妻はとうに幽冥を異にしている。つまり喰いを任じてきた人生もそろそろまとめの時が来た、と考えるようになつた。“まとめ”と いうのは自費で自分史を書いて、僅かでもいいから地球上に引っかき傷を残して置きたい、という願

寄稿

今、しあわせな暮らしの中で

出版は生きがいになる

・太田 潔 (随筆集『つまみ喰いの人生』の作者)



出版した『つまみ喰いの人生』と太田澤氏

しかし、ここで引き下がつては男がすぎる、どうしても初心貫徹、うど近くに編集のプロがいた。アドバイスをお願いしたわけである。

るにしてもタンスに放り込んであるだけで日付もどこで撮ったのかも書いてない。敢えて挑戦しようと通信教育の講座にも席を置いたりして、勉強を試みたが、返ってくる添削を見て、どうやら自分にはその資格が無いこと

子に入った本町一丁目の太田家には記録としての資料は写真も何も残ってい。ところが、婿養い。

出版社の『つまみ喰いの人生』と太田潔氏
それは十
年以上も
前からい
つも脳裏
から離れ
なかつた
事柄でも
ある。あ
自分史
を書くに
しても資
望である

『サンクス高田』はまちなか（上越市寺町3）にあり、高田駅から5分という便利さも手伝って好評な介護付有料老人ホームである。上越地方にひとつしかない（平成18年10月現在）、その施設長にお話をうかがった。



介護付有料老人ホーム「サンクス高田」全景

介護付有料老人ホーム『サンクス高田』 横田直幸施設長に聞く

●人生総まとめ

まちなかの「一生の住まい」として好評
サンクス高田は介護付有料老人ホーム（介護保険制度のサービス名称では特定施設入居者生活介護）で、介護認定を受けられた要支援1以上の方方が入居の対象となっています。社会福祉法人が運営する特別養護老人ホームが不足している背景もあり、民間事業者としての、暮らしを優先する自由性に富んだサービスを提供するため、上越地方の第一号となる介護付有料老人ホームを昨年11月3日にオープンいたしました。

介護付有料老人ホームの特徴としては、「一生の住まい」という点があげられます。もし長期入院になったとしても、居室の利用権（居住権）が存続しているため、退院後の生活・住まいの場が失われる心配はありません。「ホテルやマンションのような雰囲気が良い」「自由な生活ができる」そして「4つの協力医院と結ばれているため安心である」など新たな住まいとして好評をいただいている。

サンクス高田は「まちなかの暮らし」を基本コンセプトにし、常にご家庭における普段の暮らしに近づける努力をしています。まちなかにあるためご家族の方も訪れやすく、入居されている方とご家族のつながりを大切にし、双方の精神的な不安が解消されるようにしています。また近隣の婦人会ボランティアによる清掃やお花見等のイベント時の付き添いなど、地域の方々からご協力をいただきながら、町内会のひとつとして地域と一緒に運営に努めています。

さまざまなイベントがある点も特徴のひとつだと思います。月一回の大和上越店さんによるホーム内での出店などもあり、好評をいただいています。先日はご家族や地域の方にも来ていただき、時津風部屋の霜鳥関を含めた8名の力士の手作りによる本物のちゃんこ鍋大会も行いました。

また、併設の短期入所サービス（ショートステイ）も、プライベート性を重視した全室個室になっているため、多くの方々からご利用をいただき、大変にぎわっています。介護付有料老人ホームと同様に、地域交流スペースを活用しての喫茶コーナーやレクリエーション、ビデオ鑑賞を行ったりしています。



ちゃんこ鍋大会をお手伝い下さった地元婦人会の皆さんと霜鳥閣(中央)

介護付有料老人ホーム ショートステイ 「サンクス高田」	所 在 地 新潟県上越市寺町3丁目10-11
概 要	電 話 番 号 025-525-7038 提供する介護 保険サービス 特定施設入居者生活介護／介護予防特定施設入居者生活介護 短期入所生活介護／介護予防短期入所生活介護

とは多い。書いてあることがつまみ喰いでとびとびだから読者を振り回す結果になる。

しい限りで、次の出版を勧めてくれる人も多いのは何ゆえか……考へる。中でも人格形成をなす子供時代に近視で苦しんだこと、九死に一生を得た海軍・税務署時代のどぶろくの取締まり、初恋の話などは好評を博したこと、後日談で、初恋の相手にこの『つまみ喰いの人生』を贈呈しようと六十

にこやかで良かつた。読んだ人によつてははじめのうちこの人と結婚するのかと思つていたら、結婚しないで終わつて残念という感想を言つてゐる人もいた。



快適空間の独占

●快適空間の独占
出版と同時進行ぐらいいに「サンクス高田」という新しい形態の住居を知つた。息子が転勤になつて、いつまでも息子と嫁の世話になつていられないと、う気持ちもあり、学校の同級生で、先に入居した友人が非常にここは快適だと勧めてくれた。病気ということもある。「サンクス高田」に不自由はない。ちびりちびりと酒を飲んで、小魚や豆などの酒の肴をつまんでいる。これだけだと味気ないから、注文して鮮魚店からたらのこの醃漬

けなどを届けてもらう。不満もない。住んでいる人の生活についての考え方や過去にも気を配り、こちらの職員が最善を尽くして対応をしていると思う。みんな一生懸命やっている。

イベントやいろいろなクラブ活動があるのもいい。毎日のようにいろいろな会がある。喫茶の会や映画の会。趣味で囲碁をやるが、囲碁の相手がないのが贅沢な不満だ。

人生とはこんなものかとよく眠る。

『たかだ越書林刊『つまみ喰い人生』の問い合わせは筆者へ